

おほどものすくねやかもち  
大伴宿禰家持、  
みことのりこた  
詔に応ふる歌一首

三九二六番

おほみや  
大宮の  
うちにも外にも  
み  
見れど飽かぬかも  
あ  
光るまで  
ひか  
降らす白雪  
しらゆき

おほどものすくねやかもち  
大伴宿禰家持、  
てんびやう  
天平十八年閏七月を以て、

こしのみちのなかのかみ  
越 中国守に任ぜらる。  
すなは  
即ち七月を取りて

にんしよ  
任所に赴く。  
をばおほどものうちさかのうへのいらつめ  
ここに姑大伴氏坂上郎女、

やかもち  
家持に贈る歌二首  
おく  
うた

三九二七番

くさまくら  
草枕  
たびゆ  
旅行く君を  
きみ  
幸くあれと  
さき  
斎盆するつ  
いはいへ  
我が床の辺に

三九二八番

いま  
今のごと  
こひ  
恋しく君が  
きみ  
思ほえば  
おも  
いかにかもせ  
む  
するすべのなさ